

秋の夜長に読みたい本



-読書週間 10月27日～11月9日-

読書週間にあたり、長編小説や古典、普段あまり関わりがなかった新しいジャンルのもの等、そんな本を是非手にとってみてください。あなたのお気に入りの一冊にめぐり逢えるかも……

獣の奏者 1:闘蛇編 2:王獣編 3:探求編 4:完結編 外伝:刹那
上橋 菜穂子/著 講談社 【913ウエハ】

母が指笛を吹き鳴らした時、奇跡がおこった。決して人に慣れない生き物、「王獣」とともに生きる少女エリンの物語。

*他に同じ著者の「守人シリーズ」バルサとチャグムが織り成す異世界ファンタジー小説もぜひ!

サラダ記念日 俵 万智/著 河出書房新社 【911.16タ】

出版されたのは20年近く前ですが、今も変わらない輝きをもった一冊です。

短歌をより身近に、そして新しく感じられるのではないのでしょうか。

*他に同じ著者の「とれたての短歌です」「もうひとつの恋」「かぜのてのひら」等があります。

嵐が丘(上)(下)

E・ブロンテ/著 小野寺 健/訳 光文社 【B933ブ】

古典文学の中でも光輝く傑作のひとつであるこの作品が新訳で読みやすくなっています。

海へ出るつもりじゃなかった(上)(下) 「ツバメ号とアマゾン号」シリーズの第7巻

アーサー・ランサム/著 神宮 輝夫/訳 岩波書店 【933ラ】

河口の町、ピン・ミルにやってきたツバメ号の乗組員たちは、ゴブリン号の青年ジムと知り合いになり一緒に川を下ることに。

ところが、ゴブリン号は嵐の中、外海に流れ出てしまい、北海を東へ……

シリーズ中最もスリルに富んだ物語。